



捨てる前にもう一度チェック!

# しっかり 分別 できていますか



市では、家庭から出るごみを、可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、粗大ごみ、資源物の5種類に分けて収集しています。「忙しいから、面倒くさいから」と、資源となる紙類・ペットボトルや、金属類を可燃ごみとして出していないですか。一人ひとりの取り組みが市全体では大きなごみの減量になります。ごみを出す前に、正しく分別できているか、もう一度確認してみましょう。お問い合わせは、クリーン推進課☎483-1151（代表）へ。

## どうしてごみを分別する必要があるの?

その理由は、大きく分けると「焼却炉や最終処分場を少しでも長く使えるようにするため」と「資源の有効活用」の二つです。

◆**焼却炉・最終処分場の延命** ごみは種類によって、収集後の処理方法が異なります。可燃ごみは、清掃センターにある焼却炉で焼却処理されます。ごみを出すときに適切に分別されていれば、焼却する量が減り、その焼却灰を埋める最終処分場も長く使うことができます。

また、焼却されるごみの中に不燃ごみや金属類が混ざっていると、炉が傷つき停止することもあるため、分別することが大切なのです。

◆**資源の有効活用** 資源を有効に活用することも分別の大きな目的です。資源物として集められた缶・金属類、びん、ペットボトル、紙類は、選別・圧縮などの処理を経て、リサイクルされます。可燃ごみとして捨ててしまえばごみですが、分別すれば資源として新しい製品に生まれ変わります。資源物として出す場合も分類以外の物が混ざっていると、手作業での除去など

多くの手間と費用がかかります。機械の故障にもつながるため、しっかり分別してください。

「どれを何に分けていいかわからない」という人は、ごみの分け方が載った「家庭ごみの分け方出し方」の冊子をご覧ください。冊子は、市役所2階クリーン推進課、支所・連絡所で配布しているほか、市ホームページでも確認することができます。

## 焼却施設の改良工事をしています より一層のごみ減量にご協力を

老朽化が進む清掃センターの焼却施設は、延命化を図るため、平成25年度から28年度まで基幹的設備等改良工事を行っています。工事期間中は焼却炉などを停止するため、可燃ごみの一部を市外の焼却施設に委託して処理しています。26・27年度の2年間では、約2万トンの委託処理を行いました。これは家庭から出る年間の可燃ごみの約30パーセントにあたります。

今年度も引き続き改良工事を行いますので、外部処理委託料削減のため、より一層の可燃ごみの減量をお願いします。

## 間違いやすい分別を クイズでチェック

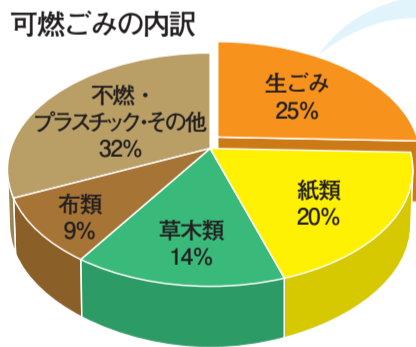


問い合わせや間違いが多いごみの分別を○×クイズ形式で紹介します。全問正解を目指し挑戦してみよう。※答えは右ページ。

	問1 植木の枝は、少量であれば可燃ごみで出せる	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
	問2 炊飯器は電化製品なので市では収集できない	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
	問3 使い切って空になったスプレー缶は、資源物で出せる	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
	問4 電化製品を除く、ほうきなどの棒状の清掃具は、すべて粗大ごみだ	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
	問5 料理で使用済みの植物性食用油はリサイクルできる	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

## ひと工夫して可燃ごみを減らそう

市に出された可燃ごみは、生ごみ類と紙類が5割近くを占めています。生ごみ類には水分が多く含まれており、紙類には、資源物としてリサイクルできるものがあります。ひと手間かけて、これらを確認することで可燃ごみを大幅に減らすことができます。



生ごみの7~8割は水分と言われています。水分が多いとごみの量が多くなるだけでなく、焼却効率も下がってしまいます。「絞る」「ぬらさない」「乾かす」を徹底し、水分を減らしましょう。



ティーバッグなどは絞って水切りを



なるべく洗う前に皮むきしてぬらさない



ぬれてしまったら、ざるやトレイで乾かす

広告